

## 2. 一人1台端末の活用と学校DXについて

文部科学省が「GIGA スクール構想」を令和元年12月19日に打ち出してから、約5年が経過しようとしております。この目的として「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現」が挙げられ、「1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の“スタンダード”であり、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるもの」と最初の文部科学大臣のメッセージにでも述べられております。更には「1人1台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとしたICTの導入・運用を加速していくことで、授業準備や成績処理等の負担軽減にも資するものであり、学校における働き方改革にもつなげていく」とも述べられております。当市においても、一人1台端末が導入されて4年近く経過し、このGIGAスクール構想の「ハード面の環境」は整備されたものと思います。また、関連事業者の間では「Next GIGAへの展望」についても議論され始めており、特にソフト面での一人1台端末の活用と学校DX推進について3点伺います。

まず、1点目は、「1人1台端末の利活用状況について」3つお尋ねします。1つ目は、市内の学校における端末利用状況については、通信事業者からのデータ使用量などの資料が毎月提供されて、端末を起動した割合としては約8割が稼働しているとの報告があるようですが、実際にGIGAスクール構想の目的でもある「個別最適な学び」としての活用状況はどの様になっておりますでしょうか。使用しているデジタル教材「ミライシード」等の導入経緯や活用状況をお知らせください。更に、現在導入しつつあるデジタル教材・授業支援ツール「まなびポケット」についてもその機能と期待できる効果についてもお知らせ下さい。2つ目として、GIGAスクール構想の当初目的にも「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない学び」とありますので、特に不登校児童生徒等に対するオンライン授業への活用状況について伺います。3つ目は、端末の家庭への持ち帰り状況と、家庭等におけるゲーム等の不適切な利用防止策についてもお知らせください。この家庭におけるゲーム等の防止策に関しては、支給されている端末以外でのゲーム等の利用制限についての対策についても併せて伺います。

2点目として、「学校DXの推進について」4つ伺います。1つ目は、これ

も GIGA スクール構想に当初から盛り込まれていた「ICT 環境の整備による教員の働き方改革」についてです。来年度からは岩手県が主導して、校務支援クラウドサービスである「スクールエンジン」の導入に向けて準備が進んでいるようですが、このサービスは教員の負担軽減にかなり有効であり、類似サービスもいくつかある中で、奥州市や金ケ崎町では既に「スクールエンジン」は導入されていると聞いております。当市においては「教員の働き方改革」として今まで導入していなかった理由は何でしょうか。2つ目として、この「スクールエンジン」は、“校務支援”“徴収金管理”“学校用グループウェア”と大きく3つの機能がありますが、全ての機能を導入するのでしょうか。導入する機能によって費用が変わってきますが、岩手県との費用負担の割合はどうなるのかを伺います。3つ目として、先に述べた「ミライシード」や「まなびポケット」に続いて、新たなサービスが導入されると、教員への講習会などは更に増やす必要があると思われます。これらの講習会への参加が増えること自体が、一時的ではありますが教員の負担増になりかねないと懸念されますが、この点についての見解は如何でしょうか。4つ目として通信環境についてです。現在の各学校の通信環境においては、特に通信速度が遅くなったなどの現象は見られていないようですが、今まで述べてきたように、児童生徒の端末の利活用の増加のみならず、教員も新たな支援ツールなどの利用により通信量、いわゆるトラフィックデータ量の増加が見込まれますが、今後についても不都合は生じない環境なのではないでしょうか。通信環境についてご説明をお願いいたします。